

予備自補で培った経験を基礎に自候生として入隊 常備自衛官として貢献したい



宮原君（左）と担当広報官

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 酒井一海尉）を、昨年、予備自衛官補（一般）に指定された隊員（宮原君）が近況報告に訪れた。

宮原君は、小銃基本射撃訓練をもって50日間の全日程が終了することや、今年春には、自衛官候補生として入隊し、陸上自衛官の道を歩むことなどを話してくれた。本来であれば、今後は予備自衛官として召集訓練に参加するはずであったが、「常備自衛官となり普通科隊員として災害派遣などがあれば貢献したい」という気持ちの変化があったことなどを明かした。精神的にも肉体的にもたくましく成長した姿に、担当の広報官は目を細めていた。

厚木募集案内所は、「今後も、入隊予定者等とのつながりを大切に、一人ひとりの希望と幸福の追求を応援していく」としている。

ボーリング場に募集ポスターを掲示



掲示された募集ポスター

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚2陸尉）は、1月13日（火）、相模原市内のボーリング場（町田ボール）に、自衛官募集相談員（岩崎正氏）の協力を得て募集ポスターを掲示した。

ポスターは、目に留まりやすい入口付近に掲示され、対象者の目を引きつけてくれるものと期待を寄せている。

相模原地域事務所は、「今後も、自衛隊への関心がより高まるよう地道にPRしていく」としている。

平成26年度就職援護フェア開催 「大いに盛り上がる！就職援護フェア」



業種説明会



ビジネスマナー・スーツ着こなし講座



パネル展示

神奈川地方協力本部（本部長 高田 充一海佐）は、平成27年1月29日（木）及び30日（金）の2日間、久里浜駐屯地において平成26年度就職援護フェアを実施した。

これは神奈川県内駐屯地等に所属する自衛官を対象に、県内の就職援護状況及び再就職に関する事項等を展示説明するとともに協力企業による業種説明会を実施して、就職援護の重要性を再認識させ、指揮官等の就職指導並びに退職予定隊員の意識改革を図ることを目的に行った。

階級・年齢を問わず2日間で延べ500名弱の陸上及び海上自衛官が来場し、「展示コーナー」では求人票・就職援護の概要・自衛隊OBの就業状況のパネルを食い入る様に見たり、「業種説明会」では8業種36社が各ブースで実施した業種説明等をそれぞれ熱心かつ真剣に聞いていた。

併せて「予備自衛官コーナー」や自衛隊援護協会東京支部神奈川担当主幹、進路相談員、パソナ任期制担当アドバイザー及び生命保険会社による「就職・ライフプラン相談コーナー」を開設、人生設計等の個別相談を実施するとともに、服飾メーカーが実施した「ビジネスマナー・スーツ着こなし講座」には、特に若い自衛官が殺到していた。

来場した自衛官からは「自分に合う職業は？」、「取得した資格を活かせる職場は？」等の質問や、業種説明会に関して「直接企業の人から話を聞けて良かった」、「もっと業種や企業の数を増やしてほしい」等、今後の人生設計基盤となる再就職先を積極的に切り開こうとする姿勢が垣間見られ、大盛況のうちに終了した。

神奈川地本は、「今後も部隊及び企業との密接な協力関係を保ちながら、就職援護フェア等を通じて、援護に対する意識向上・改革を図っていききたい」としている。